

(様式第1号)

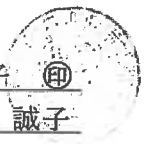
平成30年10月26日

認定介護福祉士認証・認定機構
理事長 大島 伸一 様

領域名：認定介護福祉士養成研修導入
科目名：認定介護福祉士概論
単位数：1
認証申請する研修の名称：認定介護福祉士養成研修

団体名：一般社団法人岡山県介護福祉士会
団体事務所の所在地：〒700-0807
岡山市北区南方2-13-1 きらめきプラザ7階
電話：086-222-3125
FAX：086-222-6780
E-mail：okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者：会長 安達 悦子 
申請責任者：事務局長 神寶 誠子

記

○認定介護福祉士研修認証申請書（別紙1～3）

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号

(※は記入しないでください)

認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	平成30年10月26日
申請団体名	一般社団法人岡山県介護福祉士会
申請団体代表者氏名	会長 安達 悦子
申請責任者職名	事務局長
申請責任者氏名	神寶 誠子
団体住所	〒700-0807 岡山市北区南方2-13-1 きらめきプラザ7階
同 Tel・Fax	Tel : (086)-(222)-(3125)
メールアドレス	Fax : (086)-(222)-(6780) E-mail <u>okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp</u>
申請対象の領域	領域名 : 認定介護福祉士養成研修導入
科目名 (単位数)	科目名 : 認定介護福祉士概論 (1単位)
申請する研修名	認定介護福祉士養成研修
研修認証実績	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
その他特記事項	

(様式第1号)

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	認定介護福祉士養成研修導入	
科目名	認定介護福祉士概論 (認定介護福祉士の役割と実践力)	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	<ul style="list-style-type: none">・研修全体の導入として、認定介護福祉士に求められる役割、本研修で獲得すべき知識、実践力と、本研修全体の組み立てについて理解させる。・介護現場の様々な問題がなぜ起きるのかについて、介護観・支援目標の共有化など、チーム運営の視点で把握するとともに、自立を支援するために根拠に基づいた介護を実践することの必要性を理解させる。・自ら考える力・自ら学ぶ力の重要性を改めて確認させる。 <p>・認定介護福祉士養成研修を実施するにあたり、長野県は、全国一の3214名の会員数を要し、また、当会が最も力を入れているのは研修であります。設立当初から「研修なくして介護なし!」を合言葉に質の向上に取り組んでおります。年間の研修会は、県下各地において延べ150日以上研修会が開催しております。このような中で介護福祉士の資格取得後のキャリアアップとして初めに介護福祉士基本研修、次にファーストステップ研修であり、ファーストステップ研修修了者は、262名おります。生涯研修体系に最終目標として認定介護福祉士がおりますので、そこで全国に先駆けて認定介護福祉士養成研修を長野県が最初に実施することには大きな意義があると考えております。</p>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none">・認定介護福祉士養成研修の体系を理解し、学習計画を立てる。・認定介護福祉士に求められる役割と実践力について説明できる。・介護現場でおきる問題について、チーム運営の視点で分析できる。・自立を支援するために根拠に基づいた介護を実践することの必要性を説明できる。・自分自身の価値観が自らのリーダーシップにどのように影響しているかを自覚する。	
研修内容 (研修プログラム)	含むべき内容	研修プログラム
	<ul style="list-style-type: none">○認定介護福祉士の社会的使命と介護の専門性<ul style="list-style-type: none">・介護をめぐる社会的動向 (地域包括ケアシステムと医療・介護連携等)と介護福祉士の役割の変化・認定介護福祉士に求められる役割と実践力 (根拠ある生活支援、介護職のチーム運営・マネジメント、職種間連携、地域連携)○介護現場における様々な問題とその要因<ul style="list-style-type: none">・職種間または組織間に起こりやすい問題・利用者への関わり方や介護観の相違により起きる問題○チーム運営と職種間連携、求	<ul style="list-style-type: none">○事前課題① (2時間) 事前に送られる認定介護福祉士説明資料を読み、認定介護福祉士養成研修の体系や認定介護福祉士の仕組みが創設された経緯等について自己学習する。自己学習を踏まえて、集合研修当日の講義において認定介護福祉士としての意識を持たせる。○事前課題② (2時間) 自分の属する介護職チームの状況、及びそこにおいて生じた組織的課題と、その課題を解決した事例についてA4用紙1枚(1200字)程度でまとめ持参する。現在、介護職チームに属していない者は、以前のチーム、または身近なチームとしてもよい。なお、本課題は集合研修当日の演習教材として活用する。○認定介護福祉士の社会的使命と介護の専門性 (3時間) (講義) 我が国の介護職集団と介護職チームの形成過程を理解する。また、介護職場で「日常生活を営む」ことへの支援の際、介護職が担う職能集団としての役割と機能、支援の意味、さらにこれまでの介護福祉実践の展開を理解し、介護福祉士の役割を深める。さらに、認定介護福祉士創設の経緯について、関係する制度や検討会報告書等を用いて学びながら、地域包括ケアシステムにおける施設・事業所及び地域で、介護職チームでの認定介護福祉士が担うべき役割を学び、その役割を担うために必要となる実践力(尊厳を支えるケア、自立支援の視点に基づく介護、介護の専門性等)について学ぶ。また、自

	<p>められるリーダーシップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームを構成する職種間連携 各職種の役割・機能の理解 ・チームケア・チームアプローチとは何か ・チームにおける介護観・援助目標の共有化 ・チーム内・職種間の調整 ・チームメンバーとのコミュニケーション 	<p>己学習①の学びを踏まえ、自職場やその地域において、認定介護福祉士としての自分が担う役割について考えさせる。</p> <p>認定介護福祉士養成研修を実施するにあたり、長野県は、全国一の3214名の会員数を要し、また、当会が最も力を入れているのは研修であります。設立当初から「研修なくして介護なし！」を合言葉に質の向上に取り組んでおります。年間の研修会は、県下各地において延べ150日以上研修会が開催しております。このような中で介護福祉士の資格取得後のキャリアアップとして初めに介護福祉士基本研修、次にファーストステップ研修であり、ファーストステップ研修修了者は、262名おります。生涯研修体系に最終目標として認定介護福祉士がおりますので、そこで全国に先駆けて認定介護福祉士養成研修を長野県が最初に実施することには大きな意義があると考えております。</p> <p>○介護現場における介護職チームの運営に関わる様々な問題とその要因（2時間） （演習）事前課題②をグループ内で共有し、課題の要因と、受講者である自分がとるべきであった行動、解決できた要因についてディスカッションする。</p> <p>○チーム運営と職種間連携、求められるリーダーシップ（3時間） （講義）介護職チーム運営、職種間連携の考え方、チームアプローチの手法、チーム内における価値観や専門的知識の共有手法、チーム内・職種間の調整能力、コンフリクトの解決方法等について学ぶ。 （演習）講師の提示した介護職チーム事例を基に、チーム内のリーダーとしての態度、他職種との連携の在り方や、認定介護福祉士に必要なコミュニケーション能力について議論し、全員で共有する。</p> <p>○事後課題（3時間） 事前課題及び講義・演習の内容を踏まえ、認定介護福祉士としての自分の役割を十分に考えたうえで、①自職場において介護職チームが抱える課題にどのように取り組むか、②地域において認定介護福祉士としてどのような活動を行うべきかについて、それぞれ1200字程度でまとめる。</p>
<p>研修方法</p>	<p>■集合研修 ■課題学習</p> <hr/> <p>○集合研修講義と演習を組み合わせで行う。 ○課題学習は事前課題として、①資料を読み自己学習、②レポート課題。事後課題としてレポート課題2種を課す。評価は担当講師が行う。</p>	
<p>研修時間</p>	<p>15時間（集合研修8時間、課題学習7時間）</p>	
<p>修了要件</p>	<p>○全課程の出席を要する。公共交通機関の影響、冠婚葬祭、担当する利用者の急変といったやむを得ない事情による遅刻、早退については合計30分（遅刻、早退それぞれ15分）を上限として認める。やむを得ない事情による30分以内の遅刻・欠席があった場合は、当該科目の講師資料またはテキストによる課題を提出する。 ○事前・事後課題はA～Dの4段階評価とし、D評価の場合は1度のみ再提出を認める。なお、事前・事後課題の提出が期限内に行われなかった場合、修了を認めない。 A～Dの評価の視点として以下を基準とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定介護福祉士養成研修の体系の理解がどのくらいできているか ・認定介護福祉士に求められる役割と実践力についての説明能力があるか ・介護現場でおきる問題についてチーム運営の視点で分析できているか ・自立を支援するに、根拠にもとづいた介護を実践できることの必要性の理解ができているか ・自分自身の価値観が自らのリーダーシップにどのように影響しているかを自覚できているか 	

	○欠席の場合は修了を認めない。
講師要件（講師の 選定基準）	・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者 ・補助者についても当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者
(2)受講者について	
受講対象 (受講要件)	(1)次のア～ウのいずれをも満たしていること。 ア 介護福祉士資格取得後の実務経験5年以上(実務経験の考え方は介護福祉士国家試験の受験資格に準ずる) イ 介護職員を対象とした現任研修の受講歴として、100時間以上の履歴を有していること。 ウ 当会の課すレポート課題又は受講試験において一定水準の成績を修めていること。ただし、認定介護福祉士認証・認定機構の定める研修を修了している場合は免除する。 (2)次のエ又はオを満たすことが望ましいこと。 エ 介護職の小チーム(ユニット等、5～10名の介護職によるサービス提供チーム)のリーダー(ユニットリーダー、サービス提供責任者等)としての実務経験を有すること。 オ 居宅、居住(施設)系サービス双方での生活支援の経験があること。
修了評価	修了評価は以下により行う。(①～④の全てを満たすこと) ①出席状況が修了要件を満たしていること。(全課程の出席。ただしやむを得ない事情による30分以内の遅刻、早退は認める。詳細は修了要件欄を参照。) ②演習において、発言内容、他者の意見に対する対応、演習内容の理解力等を講師が評価し、一定以上の基準を満たしていること。(合格、不合格で判定) ③事後課題「事前課題及び講義・演習の内容を踏まえ、認定介護福祉士としての自分の役割を十分に考えたうえで、①自職場において介護職チームが抱える課題にどのように取り組むか、②地域において認定介護福祉士としてどのような活動を行うべきかについて、それぞれ1200字程度でまとめる。」を提出していること。 ④事前・事後課題の全ての評価がA～Cであること。D評価の場合は1度のみ再提出を認め、C以上の評価を得なければならない。 ※D評価の場合未修了となり、本科目の修了を要件とする科目は受講できない。
(3)研修の環境条件	
定員（講師の配置 基準）	30名（講師1名）演習時も同じ講師で行う
開催場所（都道府 県）	

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 2019年10月26日
	②
	③
開催場所 (会場)	① 岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館
	(岡山市北区南方2-13-1)
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	担当講師 (演習・課題・評価): 石橋 真二 氏
	【職歴】
	昭和54年4月～平成15年3月 社会福祉法人救護施設 清水園 介護職員、主任指導員
	平成15年4月～平成30年9月現在 学校法人旭川荘厚生専門学院 介護福祉学科長、 副学院長、学院長代理、顧問など歴任
	【講師経験・社会活動等】
	平成15年4月～平成30年9月現在 学校法人旭川荘厚生専門学院にて、介護の基本、 人間の尊厳と自立、コミュニケーション技術、介護過程 などの科目を担当 平成5年～平成30年9月現在、 香川県介護福祉士会会長 平成6年2月～平成18年5月 日本介護福祉士会 副会長 平成18年5月～平成28年5月 日本介護福祉士会 会長 平成28年5月～平成30年9月現在 日本介護福祉士会 名誉会長、 一般社団法人認定介護福祉士認証・認定機構副理事長
【著書等】	
中央法規出版 介護の基本Ⅱ 第1章第3節、第4節、第2章第2節 介護職員実務者研修テキスト第1章 第3節 介護保険でこう変わるヘルパーの仕事 (共著)	
(3) 実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	認定介護福祉士養成研修実行委員会 (岡山県介護福祉士会 正副委員長・事務局員) 10名内常勤2名
研修の企画運営に関する 諸規程	岡山県介護福祉士会定款に準ずる

研修管理責任者職名	岡山県介護福祉士会研修委員長
研修管理責任者氏名	松島 智枝美
機構問合せ先部署	岡山県介護福祉士会事務局
機構問合せ先担当者氏名	藤原 美恵子
機構問合せ先電話番号/FAX	TEL 086-222-3125/ FAX 086-222-6780
機構問合せ先 e-mail アドレス	okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp
受講問合せ先部署	岡山県介護福祉士会事務局
受講問合せ先担当者氏名	藤原 美恵子
受講問合せ先電話番号/FAX	TEL 086-222-3125/ FAX 086-222-6780
受講問合せ先 e-mail アドレス	okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp
(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	岡山県介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	<ul style="list-style-type: none"> ■紙媒体及びデータによる台帳管理 ■外付けディスクにバックアップデータを保管する ■データ保存期間は10年間、その後は外付けディスクでデータを保管する。 ■個人情報の取り扱いにあたっては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	各科目を修了した時点でその科目の修了証明書を発行し、全過程を修了した者には、岡山県介護福祉士会会長名による修了証明書を発行する。
管理責任者氏名	事務局長 神寶 誠子
管理担当者氏名	事務局員 藤原 美恵子

集合研修における具体的なコマシラパス

申請対象の領域

科目名 認定介護福祉士概論

集合研修の総時間数 9 時間

1日目(9時間) 2019年10月26日

時間	テーマ	展開内容(講義ポイントや演習の展開内容)	留意事項等	担当講師 (補助講師)
9:30~10:30	認定介護福祉士とは 何か	認定介護福祉士の制度の目的と概要 認定介護福祉士制度の意義と目的の理解 認定介護福祉士の機構、カリキュラム 研修の進め方、留意事項などオリエンテーション含む	提言書、認定介護福祉士 概論のテキスト使用	石橋真二
10:30~10:40	休憩			
10:40~ 12:10	介護をめぐる社会的 動向と介護福祉士の 役割の変化	介護福祉士の資格制度、介護の専門性、認定介護福祉士 創設の経緯等について検討会の資料、テキストで学ぶ。 地域包括ケアシステムと医療、介護連携、地域包括ケ アシステムの理解、専門職同士の連携の在り方につい て学ぶ。	テキスト 一部テキストをもとに課 題学習(レポート)	石橋真二
12:10~13:00	昼食休憩			
13:00~ 14:30	認定介護福祉社に求め られる役割と実践力	地域包括ケアシステムにおける認定介護福祉士が担う べき役割を学び、その役割に必要な実践力を学ぶ 尊厳を支えるケア、自立支援の視に基づく介護、根拠 ある生活支援、チームアプローチ、チーム運営、マネ ジメント、職種間連携、地域連携等	介護現場における様々な 問題とその要因との関係 にも留意しながら学ぶ。 テキスト、課題学習(レポ ート)あり。	石橋真二

14:30～14:40	休憩				
14:40～ 16:10	介護現場における 様々な問題とその要 因	職種間または組織間に起こりやすい問題、利用者への 関り方や介護職の相違により起きる問題、職種間連携、 チーム運営、後輩育成などについて自職場での課題を 用いてグループ演習を行う。	職種間または組織間に起こりやすい問題、利用者への 関り方や介護職の相違により起きる問題、職種間連携、 チーム運営、後輩育成などについて自職場での課題を 用いてグループ演習を行う。	事前課題を提出してもら い、それをもとにチーム運 営に係る課題と要因を検 討し、チーム運営に何が必 要かを考えさせる。	石橋真二
16:10～ 17:00	チーム運営と職種間 連携	・チームアプローチ、チームケアとは何か、チームを 構成する各職種の役割、職能の理解、チームにおける 介護観、援助目標の共有化、チーム内、職種間の調整、 チームメンバーとのコミュニケーションなど。	・チームアプローチ、チームケアとは何か、チームを 構成する各職種の役割、職能の理解、チームにおける 介護観、援助目標の共有化、チーム内、職種間の調整、 チームメンバーとのコミュニケーションなど。	グループワークのまとめ テキスト活用。 事後課題として、チーム運 営と職種間連携について のレポート提出。	石橋真二
17:00～17:10	休憩				
17:10～ 18:00	チーム運営と求めら れるリーダーシップ	リーダーシップ 中堅職員やユニットリーダー等に求められるリーダー シップと認定介護福祉士に求められるリーダーシップ の違いについて学ぶ。 自分自身の価値観が自らのリーダーシップにどのよう に影響しているかを自覚する。 全体の振り返り、事後課題の説明。	リーダーシップ 中堅職員やユニットリーダー等に求められるリーダー シップと認定介護福祉士に求められるリーダーシップ の違いについて学ぶ。 自分自身の価値観が自らのリーダーシップにどのよう に影響しているかを自覚する。 全体の振り返り、事後課題の説明。	テキスト	石橋真二

45分を1時間と換算する。事前課題、事後課題を6時間とする。